

茅ヶ崎市

道路整備プログラム

【平成23年度～平成32年度】

平成27年度中間検証

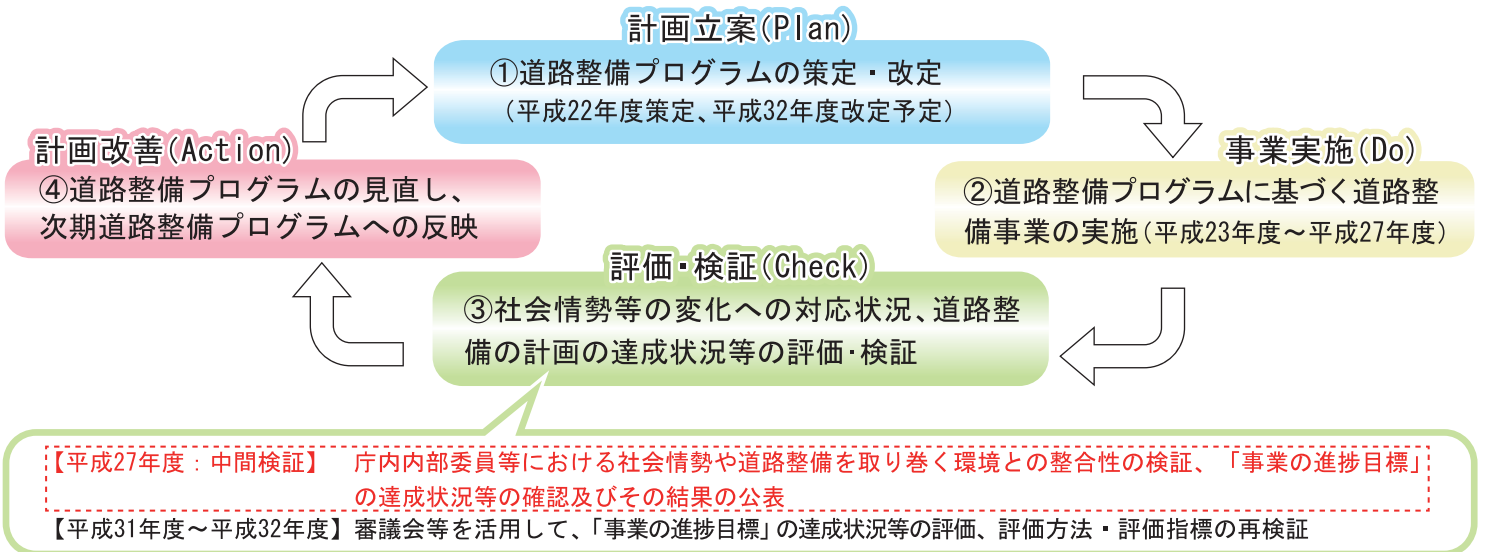


平成27年11月 茅ヶ崎市

―道路整備プログラムの中間検証―

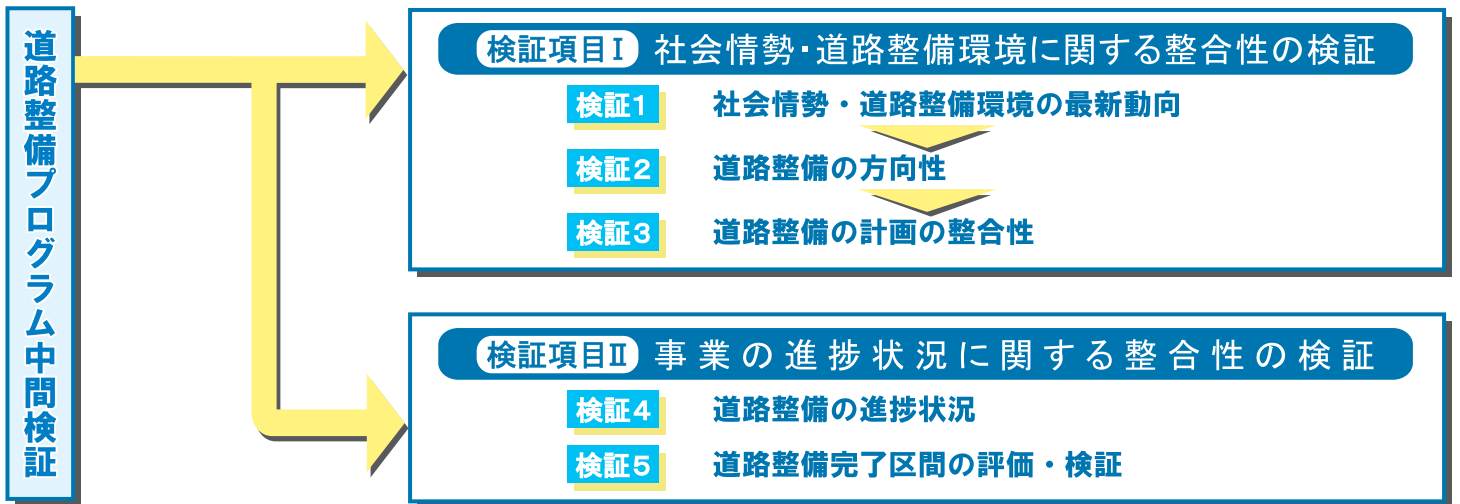
「茅ヶ崎市道路整備プログラム（平成23年3月策定）」は、本市の20年後の道路整備状況を見据えながら、道路整備環境の変化に的確に対応するため、本市が新設・拡幅等の整備を実施する主要な道路について、平成23年度から平成32年度までの10年間の道路整備の計画を示すことを目的としています。

平成27年度は、本プログラムの中間年度にあたり、最新の社会情勢や道路整備環境、事業の進捗状況を踏まえて、策定から5年間を振り返り、本プログラムの内容について、策定時との整合性を中間検証しましたので、その結果を公表致します。



―中間検証の内容・とりまとめ結果―

中間検証では、以下のフローに従い、社会情勢・道路整備環境に関する整合性の検証、事業の進捗状況に関する整合性の検証を行いました。



検証項目Ⅰの結果について

社会情勢・道路整備環境の動向に大きな変化はなく、本プログラムの道路整備の方向性は、本市を取り巻く環境との整合が図られています。また、道路整備の進捗目標を示した、第1期整備区間、第2期整備区間に該当する路線・区間は、策定時と変更がなく、策定時の計画を継続的に実施していくことが妥当であることを確認しました。

検証項目Ⅱの結果について

事業の進捗状況は、限られた予算の中で測量・設計、用地取得を着実に進めており、策定時の目標に概ね整合が図られていることを確認しました。整備が完了した区間及び一部完了した区間は、2区間となっており、混雑緩和、歩行者等の安全性の確保などの整備効果が発現しています。

中間検証のとりまとめ結果

以上の結果より、道路整備の計画及び事業の進捗状況は、策定時と整合が図られており、本プログラムの内容の見直しは行わず、本プログラムに基づく道路整備を、平成32年度まで継続的に実施していきます。

検証項目I 社会情勢・道路整備環境に関する整合性の検証

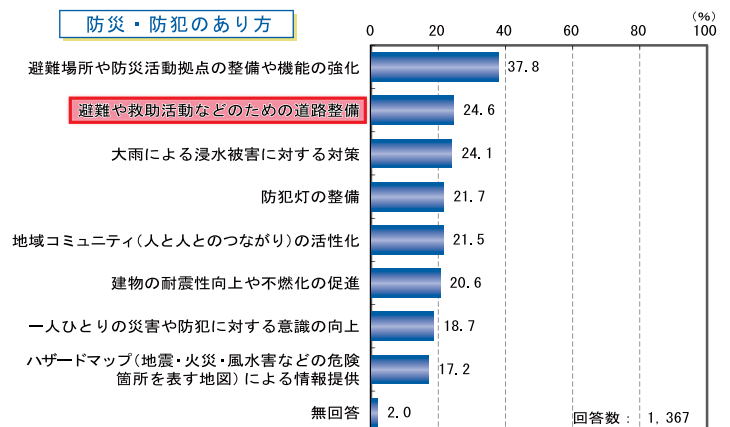
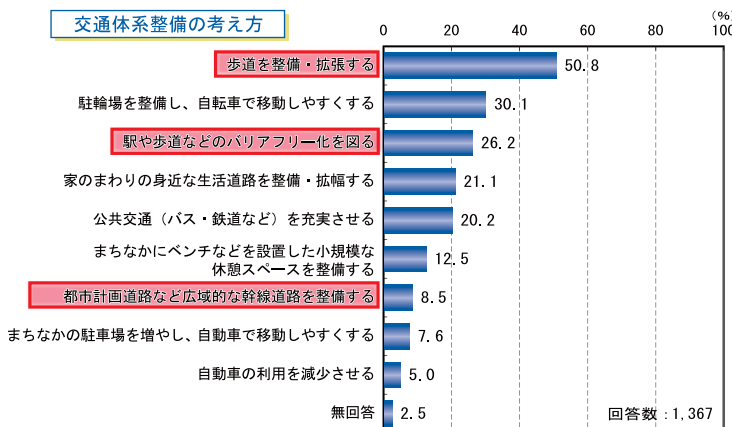
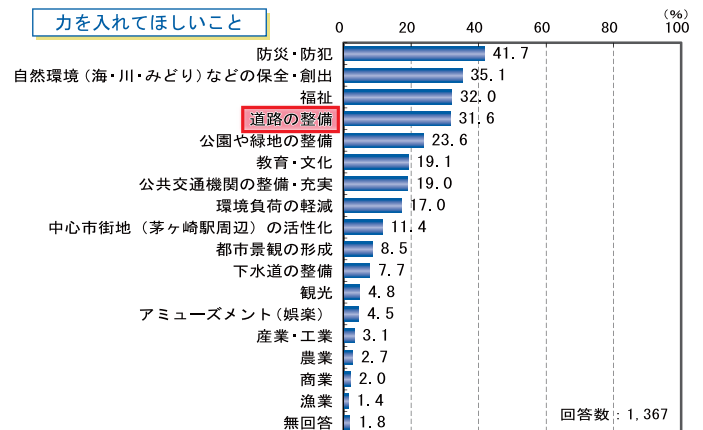
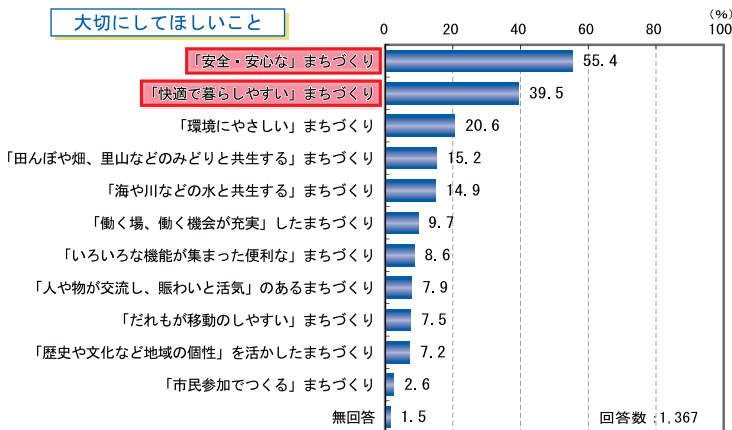
検証1 社会情勢・道路整備環境の最新動向

本プログラム策定以降の道路整備環境・道路交通課題、市民ニーズ、上位・関連計画について、最新の資料やデータを収集し、本市を取り巻く最新動向を確認しました。

項目	主な内容
道路整備環境・ 道路交通課題	<ul style="list-style-type: none"> ○茅ヶ崎市に関連する道路整備環境の変化 <ul style="list-style-type: none"> →さがみ縦貫道路(平成27年3月) →国道134号の4車線化(平成27年3月) ○茅ヶ崎市の道路整備現況からみた課題 <ul style="list-style-type: none"> →都市計画道路の整備率は約58%で、周辺市と比較して低い水準 ○茅ヶ崎市の道路交通状況からみた課題 <ul style="list-style-type: none"> →市内の幹線道路では混雑発生 →1年で5件以上の人身事故が発生している交差点が存在
市民ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ○茅ヶ崎のまちづくりを考えるアンケート(平成25年7月～8月) <ul style="list-style-type: none"> →道路に関して「防災機能」や「歩行者の交通機能」を重視する傾向 ○茅ヶ崎市のまちづくり市民満足度調査(平成27年度) <ul style="list-style-type: none"> →今後のまちづくりの重要度：「生活道路の安全性・快適性」の重要度が高かつ、満足度が低い
上位・関連計画	<ul style="list-style-type: none"> ○ちがさき都市マスタープラン(平成26年3月) <ul style="list-style-type: none"> →東日本大震災の教訓を活かした都市づくり ○茅ヶ崎市低炭素まちづくり計画(平成27年3月) <ul style="list-style-type: none"> →歩きやすい空間を有する拠点地域の形成 ○茅ヶ崎市バリアフリー基本構想(平成27年9月) <ul style="list-style-type: none"> →茅ヶ崎駅・北茅ヶ崎駅を中心として重点整備地区を指定

ちがさきのまちづくりを考えるアンケート結果

出典：ちがさき都市マスタープラン(平成26年3月)抜粋

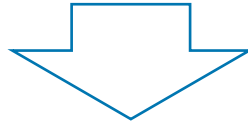


検証2 道路整備の方向性

本プログラム策定時の「道路整備プログラムの5つの方向性」が、現状の課題やニーズに対応しているか、今後の道路整備に向けて的確であるかについて、検証1（社会情勢・道路整備環境の最新動向）の内容に基づいて検証しました。

その結果、本プログラムの「5つの方向性」は、現在の本市を取り巻く環境と整合性が図られていることを確認しました。今後も策定時の「5つの方向性」に基づいて道路整備の取組みを継続的に推進していきます。

社会情勢・道路整備環境の最新動向（検証1）



【中間検証】
策定時の道路整備の方向性の確認

道路整備プログラムの5つの方向性

限られた財源の中で、『道路整備プログラムの5つの方向性』を実現するため、整備効果や効率性が高い道路整備を優先的にを行います。

● 「人」を重視した道づくり

- ・ 歩行者・自転車の通行環境整備
- ・ 通学路歩道整備
- ・ 歩道のバリアフリー

● 暮らしの安全・安心を支える道づくり

- ・ 交通事故対策
- ・ 災害に強い道路網整備

● 円滑で快適な移動を実現する道づくり

- ・ 渋滞対策
- ・ 効率的な道路ネットワーク整備
- ・ 公共交通支援（バス路線整備）

● 地域活力を高める道づくり

- ・ 工業系地域の道路整備
- ・ 公共施設へのアクセス道路整備
- ・ 都市・交流拠点アクセス道路整備

● 環境にやさしい道づくり

- ・ CO₂等排出量削減
- ・ 自動車交通騒音低減
- ・ 道路緑化

検証3 道路整備の計画の整合性

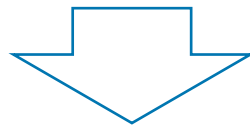
評価対象路線の各評価単位区間*1について、道路整備の「有効性」や「費用対効果」及び「事業性」に関する中間評価を行い、道路整備の優先度を示す第1期～第3期整備区間の位置づけを検証しました。

その結果、第1期整備区間、第2期整備区間に該当する評価単位区間は変更がなく、道路整備の計画は、策定時と整合が図られていることを確認しました。

道路整備目標

- 第1期整備区間：本プログラム期間内に整備完了もしくは着手・継続する区間
- 第2期整備区間：第1期整備区間を整備した後に事業着手を検討する区間
- 第3期整備区間：現状では着手未定の区間

道路整備プログラムの評価単位区間



【中間検証】
策定時と同じ区間を設定

① 道路整備の「有効性」の評価

道路整備の「有効性」が
高い区間を選定



【中間検証】
最新の資料やデータを基に、
評価基準や評価点を更新

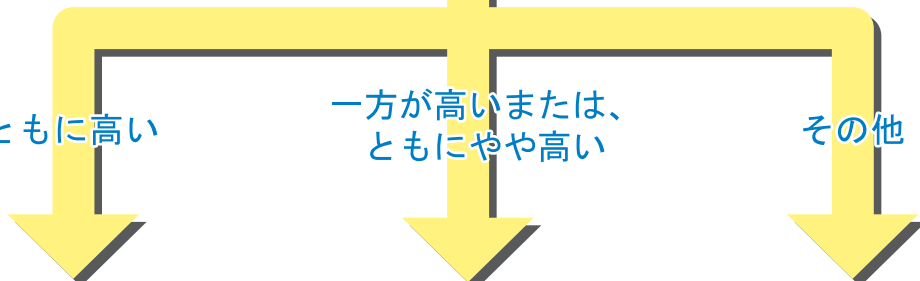
② 「費用対効果（本市独自に設定）」及び 「事業性」の評価

費用対効果と事業性の評価が・・・

ともに高い

一方が高いまたは、
ともにやや高い

その他



道路整備目標

第1期整備区間

第2期整備区間

第3期整備区間

※1 評価単位区間：各評価対象路線の未改良区間を道路ネットワークとして有効な区間に分割した区間

検証項目II 事業の進捗状況に関する整合性の検証

検証4 道路整備の進捗状況

評価対象路線の各区間に対し、策定時に設定した事業の進捗目標について、用地取得・測量・設計などの実施状況により道路整備の計画との整合性の検証を行い、その結果、策定時の目標に概ね整合が図れていることを確認しました。あわせて「第1期整備区間」に選定した区間について、現在の進捗状況の評価を行いました。

中間検証による道路整備の計画（事業の進捗目標）

分類	道路整備目標	路線・区間 (延長、幅員)	路線名 (略称)	道路整備の計画	進捗状況 の評価
都市計画道路	第1期整備区間	新国道線 区間3 (延長922m, 幅員20m)	新国3	整備継続予定	◎
		東海岸寒川線 区間3 (延長340m, 幅員16m)	東寒3	整備完了	◎
		東海岸寒川線 区間4 (延長290m, 幅員12m)	東寒4	整備着手予定	△
	第2期整備区間	新国道線 区間4 (延長680m, 幅員20m)	新国4	第1期整備後 着手検討	—
		中海岸寒川線 区間3 (延長390m, 幅員20m)	中寒3	第1期整備後 着手検討	—
		東海岸寒川線 区間2 (延長770m, 幅員16m)	東寒2	第1期整備後 着手検討	—
幹線市道	第1期整備区間	香川甘沼線 区間1 (延長920m, 幅員12m)	香甘1	整備継続予定 (うち一部区間整備完了)	◎
		上赤羽根堤線 区間1 (延長180m, 幅員12m)	上赤1	整備継続予定	◎
		高田萩園線 区間1 (延長410m, 幅員12m)	高萩1	整備継続予定	○
		下寺尾芹沢線(B路線)区間3 (延長300m, 幅員12m)	下芹3	整備継続予定	○
		行谷芹沢線(C路線)区間1 (延長531m, 幅員12m)	行芹1	整備継続予定	◎
	第2期整備区間	市道0210号線(梅田通り) 区間1 (延長250m, 幅員12m)	梅田1	第1期整備後 着手検討	—
		下寺尾芹沢線(B路線)区間4 (延長420m, 幅員12m)	下芹4	第1期整備後 着手検討	—

※第1期整備区間、第2期整備区間に示されていない区間は、全て第3期整備区間になります。
 ※◎：整備完了もしくは、事業中、用地取得に着手 ○：測量・設計の実施
 △：計画期間内に着手予定 —：第1期整備区間整備後に着手

凡例

未改良 (評価対象区間)	都市計画道路 (市管理・整備予定)	将来計画構想が ある幹線指導
第1期 整備区間	計画期間内に整備完了 もしくは着手・継続	(整備完了) (整備継続予定) (整備着手予定)
第2期 整備区間	第1期整備区間を 整備した後に事業着手を検討	
第3期 整備区間	現状では着手未定	
改良済		
評価単位区間	区間境界	[]
	区間番号	番号

現道	市街化区域
No 国道	市街化調整区域
No 主要地方道	
No 一般県道	
他の市道	



中間検証による道路整備の計画図

検証5 道路整備完了区間の評価・検証

本プログラム策定以降、評価対象路線のうち、東海岸寒川線 区間3、香川甘沼線 区間1（一部区間）の整備が完了しました。この区間の概要及び整備による主な効果についてご紹介します。

東海岸寒川線 区間3(東寒3)

整備前



整備期間 平成13年～平成24年4月

整備延長 340m

主な整備効果 幹線道路の混雑緩和

幹線道路が接続し、周辺道路の混雑緩和や公共施設へのアクセス性が向上しています。
また、市立病院へのアクセス経路となるため、災害時の移動時間短縮が図られます。

整備後1



整備後2



香川甘沼線 区間1(香甘1)の一部区間

整備前



整備期間 平成8年～平成26年6月

整備延長 区間延長920mのうち180m

主な整備効果 歩行者等の安全性の確保

狭い道路を拡幅し、歩道と車道を分離したことにより歩行者等の円滑な通行や安全性を確保しています。
また、植樹帯やバス停留所を整備しており、沿道環境が向上しています。

整備後1



整備後2



本道路整備プログラムの全体版は、本市のホームページや市役所市政情報コーナーおよび下記の担当課にて閲覧することができます。

茅ヶ崎市建設部道路建設課 〒253-8686 茅ヶ崎市茅ヶ崎一丁目1番1号

TEL:0467-82-1111, FAX:0467-57-8377, E-mail: dourokensetsu@city.chigasaki.kanagawa.jp